

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会循環器疾患等部会
鳥取県健康対策協議会生活習慣病対策専門委員会

■ 日 時 令和8年2月19日(木) 午後1時30分～午後2時20分

■ 場 所 テレビ会議 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
鳥取県西部医師会館 米子市久米町

■ 出席者 20人

〈鳥取県健康会館（鳥取県医師会館）〉

清水健対協会長、岡田・角田・中島・中安・野口各委員

健対協事務局：岡本事務局長、田中尚・田中貴両係長、岩垣主任、廣瀬主事

県健康政策課：大谷参事、田中保健師

県医療・保険課：小寺課長、田中課長補佐

〈鳥取県西部医師会館〉

黒崎部会長、谷口委員長、越智・高田・藤井各委員

【概要】

- ・令和5年度の特健康診査受診率は、全国59.7%、鳥取56.4%であった。前年同様に全国よりやや低い値で推移している。特定保健指導実施率は全国27.7%、鳥取28.4%であった。
- ・市町村国保のみなし健診が伸びない理由について質問があり、実施していない市町村があること、実施していても住民が制度を知らないことが挙げられた。高齢者は通院中の者が多いため、県として再度市町村へ働きかけを強化してほしいと要望があった。
- ・健康寿命延伸のための調査分析事業の中間結果が報告され、飲酒頻度および飲酒量と血圧の関係や喫煙習慣と血圧について報告された。今後県のホームページで公開予定である。
- ・令和8年度循環器病対策推進事業は今年度

と同様の事業実施を予定している。心疾患遠隔リハビリテーションの実施に係る医療機器等の整備にあたり、予算額は102万円増の9,862千円を要求している。

挨拶（要旨）

〈清水会長〉

生活習慣病は、私たちの健康や日々の生活に大きな影響を与える身近な課題である。予防や改善の大切さは知られているものの、実際には多くの方が悩みを抱えている。本日は率直なご意見をいただき、今後の取り組みをより良いものにしていただければと思う。

〈黒崎部会長〉

本県では令和6年度から健康づくり文化の定着と健康寿命の延伸を目的とした「鳥取県健康づくり文化創造プラン（第4次）」と、「鳥取県循環器病対策推進計画（第2期）」が開始されている。本日はそれぞれの現状報告と次年度の取り組みに

ついでご意見をいただきたい。

〈谷口委員長〉

生活習慣病対策は以前は肥満を中心としたメタボリック症候群が焦点となっていたが、近年は死因割合の上位を占める心疾患、脳血管疾患を含めた循環器病関連をターゲットとした対策が進んでいる。本日は忌憚のない意見をお願いしたい。

報告事項

1. 特定健診受診率等の推移等について：

田中県健康政策課保健師

令和5年度特定健康診査受診率は、全国59.7%（前年比1.9ポイント増）、鳥取56.4%（前年比3.2ポイント増）だった。年々上昇傾向にあるが全国よりやや低い値で推移している。特定保健指導実施率は全国27.7%、鳥取28.4%だった。令和2年度以降上昇傾向にある。

（参考）令和6年度市町村国保の受診方法別受診率

受診率は36.9%だった。内訳は集団健診が9.2%（前年比プラス0.4ポイント）、個別健診が27.0%（前年比プラス0.8ポイント）、みなし健診が0.7%（前年比マイナス0.1ポイント）だった。委員より、コロナ禍を経て受診率が上昇してきているものの国保は他の保険者と比べて依然として低く、特にみなし健診が伸びない理由について質問があった。実施していない市町村があること、実施していても住民が制度を知らないことが挙げられた。高齢者は通院中の者が多いため、県として再度市町村へ働きかけを強化してほしいと要望があった。

2. 健康寿命、年齢調整死亡率等の数値目標について：

田中県健康政策課保健師

令和4年度の健康寿命（3年ごと公表）は、令和元年度から男性は1.31年延び72.89年（全国17位）、女性は0.23年延び74.97年（全国39位）と延伸した。要因として、ストレスを感じた者の割合が男性の改善率が大きかったこと、健康マイレージ事業参加数が増加したことが一助になっているのではないかと推測している。10万人あたりの年

齢調整死亡率は、脳血管疾患は男性96.5人、女性58.7人、虚血性心疾患は男性58.0人、女性22.3人であった。

人口動態統計による令和6年の本県全死者数は8,032人、そのうち心疾患は988人（12.3%）、脳血管疾患は619人（7.7%）だった。いずれも令和5年より減少していた。

3. 令和6年度医療費・特定健診データ等分析結果（一部抜粋）（鳥取県保険者協議会分析結果）：

田中県健康政策課保健師

○令和元年度～令和6年度保険者別、被保険者・被扶養者別の特定健診受診率・特定保健指導実施率の推移

被保険者では警察共済が一番高く99.4%だった。協会けんぽは68.7%、市町村国保は36.9%であった。被扶養者も警察共済が一番高く69.9%、協会けんぽは25.5%であった。

○令和元年度～令和6年度のメタボリックシンドローム該当者率・予備群率の推移

保険者別メタボリックシンドローム該当者率は全体平均で17.7%と前年と比べやや増加した。予備群率は全体平均で10.5%とやや減少した。

○令和6年度保険者別健診データの判定

- ・ 血圧治療者：被用者保険では治療者における降圧目標以上の者の割合が高く、治療を行っていても血圧コントロールが良好と言えない者が多い。
- ・ 血圧非治療者：被用者保険で割合が高い。全保険者で判定②～④（保健指導・受診勧奨判定値以上）が2～3割存在する。
- ・ 血糖治療者：後期高齢を除くとHbA1Cが6.0%以上の者がほとんどで、コントロールの悪い人が多い。
- ・ 血糖非治療者：判定②～④（保健指導・受診勧奨判定値以上）の者が2～3割存在する。
- ・ 脂質治療者：被用者保険は治療者割合が低い。コントロール良好と言えない者も多い。
- ・ 脂質非治療者：全保険者で基準値内の者の割

合は2～4割。

また、高血圧ガイドラインが改定となったことについて以下の意見があった。

- ・来年度報告からは2025年版ガイドラインを活用するためこれまでとの単純な年度比較が難しくなる可能性がある。
- ・家庭血圧が重要視されるようになる。ただし本資料は特定健診結果をもとに集計しているため項目に無い家庭血圧を入れることは難しい。特定健診の健診票に家庭血圧を入れることは各市町村で様式改正等が必要になる。県としては家庭で血圧を測る取り組みを推進することは重要と認識しているため、市町村と協議の場でも確認したい。

4. 健康寿命延伸のための調査分析事業について (中間報告)：大谷県健康政策課参事

県では鳥取県健康づくり文化創造プラン（第四次）において、健康寿命の延伸を目指し、地域や職域など社会全体で健康づくりを強力に推進する環境を整備することを重点的取り組みと位置づけている。この一環として、協会けんぽおよび国保連合会から令和5年度特定健診データの提供を受け、分析した結果の中間報告があった。概要は以下のとおりである。

- ・調査対象は301,507人（男性135,923人、女性165,584人）。県推計人口の約75%。
- ・特定健診受診者は104,065人、受診率は34.5%。74歳未満の受診率に限定すると41.3%。後期高齢者は何かしらで通院中の者が多く健診受診率は低い。
- ・令和3～5年度のうち1回以上受診有は130,597人（51.8%）。最高は40歳代の63.5%。働き盛り世代（40～50歳代）への早期アプローチ、受診時に毎年受診の動機付けを行うことで受診率向上が期待できる。
- ・成人喫煙率は16.0%（男性27.2%、女性5.6%）。40～50歳代の男性に限ると約4割が喫煙有り。全国喫煙率は15.7%（男性25.6、女性6.9%）。禁煙の働きかけや受動喫煙防止の徹底などの環

境整備が引き続き重要。

- ・20歳代から体重増加10kg以上の該当率は27.2%。40～60歳代の男性で約5割、女性の約3割が該当する。肥満だけでなく若い女性のやせや貧血へのアプローチも必要。
- ・飲酒頻度および飲酒量と血圧の関係は、男性の高頻度、多量飲酒ほど血圧高値（拡張期も同様）。女性は目立った傾向はなかった。
- ・喫煙習慣と血圧の関係は、男性で喫煙歴があると血圧高値の傾向が見られた。
- ・腹囲リスク（男性85cm、女性90cm以上）があると血圧高値の傾向がある。

なお、本分析は年代別、性別の分析が目的であり、職種別の分析評価はできない。今後も様々な意見を伺い分析を進めていく。今後、県ホームページで公開予定である。

5. 令和8年度鳥取県国民健康保健事業について： 田中県医療・保険課課長補佐

市町村データ分析支援事業として、国保連合会が保有する国保データベース（KDB）システムを活用し、県及び各市町村の国民健康保険及び後期高齢者医療の健診・医療・介護情報等の分析を行い市町村や関係機関へ情報提供する。次年度は拡充事業として、データヘルス計画の中間見直しに必要な各種データの調査を委託により実施する。また、特定健診受診率向上支援事業として、CM動画の放送、Web広告、啓発資材を作成し啓発する。

6. 令和8年度事業について（生活習慣改善、循環器病対策関係等）：角田県健康政策課長 (1)令和8年度事業について

生活習慣病検診等精度管理委託事業、循環器病対策推進事業、糖尿病・慢性腎臓病（CKD）予防対策事業、ココカラげんき鳥取県推進事業等を継続実施する。

その他事業として、新規に「鳥取方式フレイル予防対策推進事業」を実施する。働く世代（ミドルエイジ）への取り組み推進、マンガによる普及啓発、市町村が実施するフレイル予防への取り組

み支援などを行う。具体的には大人の体力測定として健診では測定しない握力や足指力測定などを通じて、健康づくりや運動習慣のきっかけを作り、健診に興味を持ってもらうような取り組みを検討する。

(2)令和8年度の循環器病対策推進事業当初予算案
前年度と同様に健対協および鳥取大学医学部附属病院への委託による事業実施を予定している。心疾患遠隔リハビリテーションは新規に三朝温泉病院で実施予定。医療機器等の整備にあたり予算額は102万円増の9,862千円となっている。

委員より、生活習慣病対策は肥満だけでなくフレイル予防、やせなど、様々な概念が入ることによって混乱しやすい。データに基づいた対策が必

要で、大谷参事の調査分析事業は非常に役に立つ。この委員会で大学、専門医、行政とが共有できるのは大変意味のあることで今後も継続してほしいとの意見があった。

7. その他

・テルモ株式会社との連携協定の締結について：
県健康政策課

健康づくりに関する取り組みを地域全体に広めることで県民の健康寿命の延伸に寄与することを目的に、「県民の健康寿命の延伸に係る連携協力に関する協定書」を令和8年1月に締結した。健康づくりや健康寿命延伸に係る普及啓発、取り組み団体への支援などを実施していく。